

=====

本メールマガジン[NEE Mail Magazine]は、経済教育ネットワークより会員の皆様にお送りしております。

=====

◆◇-----◆◇

◆ NEE Mail Magazine 125号 ◆

-----◆◇

2019-6-3◆◇

水無月の6月です。

北海道を除くと、一年で一番うっとうしい季節かもしれません。国民の休日が全くない月で、5月の連休の一部を6月にも分散させればよいのと思うのは、授業をやる先生たちだけではなく、生徒も同じかもしれません。

とはいえ、水無月の意味は水が無くなるというのではなく、「水の月、田に水をひく月」という意味があるそうで(国立国会図書館 HP「日本の暦」より)、梅雨の季節は作物にとっては慈雨の季節でもあり、ものごとは多面的・多角的に捉えなければ、という感想も浮かびます。

そんな今月もネットワークの活動を報告するとともに、授業に役立つ情報を提供いたします。

---

【1】最新活動報告

19年5月の活動やニュースを報告します。

【2】定例部会のご案内・情報紹介

部会のご案内、関連団体の活動、ネットワークに関連する情報などを紹介します。

【3】授業のヒント「手抜き」テスト問題作成法

---

【ご案内】「夏休み経済教室」の申し込みがはじまります。

---

今夏の、東京証券取引所(日本取引所グループ)との共済で「先生のための夏休み経済教室」の申し込みが6月3日からはじまります。

プログラムの概要と参加登録については、次の東京証券取引所サイトをご覧ください。

- ・大阪会場:8月5日・6日(国民會館)
- ・東京高校向け会場:8月8日・9日(東証ホール)
- ・東京中学向け会場:8月19日・20日(東証ホール)

---

【1】最新活動報告

---

■東京部会(No.109)を開催しました。

日時:2019年5月14日(火)19時30分~21時30分

場所:慶応義塾大学三田キャンパス研究棟446号会議室

内容の概略：参加者 12 名

(1) 19 年夏休み経済教室の準備をおこないました。

- ・鈴木深氏（東京証券取引所）から、案内のちらしは 5 月下旬から 9000 箇所へ送付、6 月 3 日をめどに受付開始、研究団体などでちらしが必要な場合は、連絡していただきたいとの報告がありました。
- ・東京、大阪部会で、発表内容のブラッシュアップがすすめられていることが紹介され、今後、発表内容の検討を部会や有志の勉強会などで共有しながら、質の高い教室にしてゆくことが確認されました。

(2) 三つの実践報告・教材提案の検討が行なわれました。

- ① 黒岩公輔先生（都立立川国際中等教育学校）からの報告と検討です。
- ・黒岩先生は、夏の経済教室での発表者で、当日報告予定の新テストの試行問題に関する勤務校での生徒の解答状況など詳細なアンケート結果が報告されました。
  - ・対象としたプレテスト問題（「政治・経済」大問 1B の問 6）の正答率は 30% 強で、生徒のアンケートでは、タダの暗記だけではダメ、社会に目を向けていないので良く分からなかったという感想の一方で、習っていないが答えを出すことができたとの感想もあったとのことでした。

・これからの学習では、なぜ？と問いかけることが総合的な学習につながる、一方的な授業スタイルではなくゼミナール型が必要など、授業改善へのヒントとなる生徒の回答も紹介されました。

・今後、プレテスト問題をベースとした、地方自治、地域経済に関する授業プランを実践して、夏の教室発表準備に備えることになっています。

② 塙枝里子先生（都立農業高校）からの報告と検討です。

・夏の経済教室で発表予定の労働、職業選択に関する授業プランのなかの「椅子取りゲーム」に関する概要の紹介と検討がおこなわれました。

・現在の労働市場の状況は、年齢や産業によるミスマッチが問題となっているので、数だけではなく質までを問題にするゲームや、そこから労働の何を教えるのかを明確にした問いが必要との指摘が篠原代表および参加者から寄せられました。

・それに対して、発問部分にジグソー法を導入するなどの授業形態を工夫することで、労働が同質でない状況、新しい状況への対応などを考えさせる展開なども考えたいとの回答があり、実践を踏まえた授業提案の準備をすすめることになりました。

③ 杉浦光紀先生（都立井草高校）からの「掃除当番から考えるゲーム理論と

環境・財政問題」の授業プラン紹介と検討です。

・提案された授業プランは、教室の掃除を巡るシナリオから、誰も掃除をしなくなってしまう「囚人のジレンマ」状況を発見させ、ジレンマを抜け出す方法を考えさせてゆくものです。さらに、3年生が使った教室を掃除するかというシナリオから、世代間のライフポートジレンマを導き、そこから財政問題の持続可能性に広げるプランです。

・このプランに対して篠原代表が、「囚人のジレンマ」モデルには、それを使うことができる条件と使うことが適切でない条件があることを指摘した。高校教員はほぼ例外なく同一の利得表を使っているが、それは参加者全員が全く同じ効用関数をもっていると仮定すること、そして効用(満足)の程度を数字の大ききで表せるという仮定を置くことと同じである。ここであげた杉浦モデルでは、教室がきれいになる程度や掃除に要する時間の価値を数字で表せ、しかもその満足度の程度を示す数値の構造が全員同じだという仮定である。

したがって、もし生徒によって教室がきれいになることの受け止め方が異なるとき、ゲーム理論が先生方の教えようとしている結論を導く保証はない。要は、「囚人のジレンマ」モデルを使う授業では、とくに利得表の「数値の関係」の意味を吟味して欲しいという指摘であった。

・それをうけて、今後さらにプランに検討を加え、ゲーム理論がどこまで使えるか、シナリオの手直しなどをおこなってゆくとの回答がありました。

・部会内容の詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo109report.pdf>

---

## 【 2 】定例部会のご案内・情報紹介

---

<定例部会のお知らせです。(開催順)>

■札幌部会(No.20)を開催します。

日時:2019年6月8日(土) 14時30分~17時00分

場所:キャリアバンク セミナールーム

■東京部会(No.109)を開催します。

日時:2019年6月18日(火) 19時00分~21時00分

場所:慶応義塾大学三田キャンパス研究棟 446号会議室

■大阪部会(No.64)を開催します

日時:2019年6月29日(土) 18時00分~20時00分

場所:同志社大学 大阪サテライト(予定)  
申し込みは下記へ

<関連団体のイベント紹介です>

■金融広報委員会主催 「先生のための金融教育セミナー」が開催されます。

日時:2019年8月9日(金)(小・中学校向け)

8月19日(月)(高等学校向け)

場所:日本教育会館(東京都千代田区)

---

### 【3】授業のヒント 「手抜き」テスト問題作成法

---

タイトルは少々奇をてらっていますが、テストの重要性とその作成に関する問題提起として読んでください。

#### (1)新テストのインパクト

センター試験に代わる新テストの試行問題を見てこれは「かなわない」など思った先生は結構多いのではと思います。

「かなわない」というのは二つあり、一つは、これは授業改善への「圧力」だという点からの感想です。いままでのやり方をかえなければいけないのは「かなわない」。

もう一つが、このレベルの問題を作成するとなると相当のエネルギーが必要になり、それを現場でも要求され、こんな問題をつくれといわれるのは「かなわない」。

前者は、今夏の夏休み経済教室でとりあげるテーマで、今回はとりあげません。問題は後者です。

経済の観点からは、できるだけすくない労力で最大の効果をあげるにはどうしたらよいかという問題設定ができるのではというのが今回のヒントになります。

#### (2)次期指導要領を逆手に取る

周知のように、次期学習指導要領は、二段構成になっています。

一段目は知識を身につける、二段目は思考力、判断力、表現力を身につける、です。

テストではこれを逆手にとればいいのです。

細かい問題をちょこちょこ出すと、これは知識、これは思考力など分類しなければなりません。

それなら、いっそのこと知識部分は知識確認ということで短答問題をまとめて出すという形で処理して、思考力、判断力、表現力を確認する論述問題を出せば良いのではないのでしょうか。

そんな機械的な分け方はできないという意見もわかりますが、このあたりは合

理的にわけて考えた方が教師も生徒も助かるのではと思いますがどうでしょうか。

(3)知識確認には選択問題で

知識確認の方法にはいくつかあります。

一つは、短答式で答えさせる問題や穴埋め問題。これだと丸暗記が可能になってあまり学習効果は期待できません。

もう一つは、正誤選択問題、いわゆる○×問題、文章の正誤を判定させる方式です。

今回のおすすめはこちらです。

なぜなら、文章をしっかり読んで、その正誤を判定するのは、今問題になっている読解力と関係するからです。

新井紀子さんの指摘する「教科書が読めない生徒たち」を少しでもなくすには、教科書の文章をもとにした選択肢(命題の文章)を作成して、その真偽を問う問題を沢山やらせれば良いはずです。

もちろん、これは少々乱暴な言い方で、命題に対して裏、逆、対偶に相当する文章を作成してそれを判定させるなど、選択する文章を工夫することも必要であることは言うまでもありません。

その場合、四択問題にする場合は必ずもう一つ、「このなかに正解はない」をいれて五択にしておくことです。そうすれば、当てずっぽうな解答はできなくなります。

また、二つの文章を出して、その二つがあっていたら①、一つがあっていたら②もしくは③、二つとも間違っていれば④というような形式の選択問題を出すこともできます。

(4)思考力、判断力、表現力は論述問題で

思考力、判断力、表現力を問うには論述問題、記述問題が求められるでしょう。やり方は二つです。

一つは、授業のなかで考えさせたり、討論させたり、発表させたテーマに関しあらかじめ予告して、エッセイ(小論文)を書かせる方式です。

その際には、書く条件や書き方を指定して準備させても良いかもしれません。

これは学校の試験の例ではありませんが、加藤創太・小林慶一郎編著『財政と民主主義』(日本経済新聞出版社)では、最初に「大問」を出し、それをさらに4つの「小問」にわけ著者に文章(この場合は論文)を書かせています。このやり方は、授業のテーマ学習の方法にも使えますが、予告の論述試験にも使える方式です。

もう一つは、試行テストのように、はじめて見る創造的な問題を作成することですが、これは無理に行なわなくとも、ここまで書いた選択問題と論述問題の組み合わせをしておけば、余裕のできたときにやれば良いということになります。なお論述問題では、模範解答を自分で書いてみて、採点基準をあらかじめ生徒に伝えておくこともやっておいた方が良いと指摘しておきます。

(5)テストを楽しく、生徒との対話にする

この小見出しのようなテストができれば最高ですが、なかなかそう簡単に問屋は下ろしてくれません。

でも、この程度の「手抜き」をしてテスト問題を作成してもバチは当たらないと思うのですがいかがでしょうか。

ちなみに、私はこれから予定されている前期の中間考査(二期制の学校に出校しています)は、この「手抜き」方式でやろうと思っています。結果はどうなるか、論述問題など作成に「手抜き」をした分だけ、採点の時の苦しみが見えているようで怖いのですが、それも対話的テストのためということで、乞うご期待というところです。(新井)

---

#### 【 4 】編集後記(みみずのたはこと)

最近テストの夢を時々見ます。普通は、答案が書けずに冷や汗をかくというものですが、私のは「先生、テスト問題ができていませんよ」というものです。

久しぶりの高校での授業が結構気持ちの上でプレッシャーになっているのかもしれない。

テストは出す方も試験されているということでもあるということですね。(新井)

---

登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページよりお手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>



編集・発行 : 経済教育ネットワーク

(C) Network for Economic Education ◆◇